

## <つながりアクションチーム>

### 【児童生徒の実態】

知的好奇心が高く、学習態度は良好で、課題に対し熱心に取り組むことができる。また、礼儀正しく落ち着いた態度で生活している。急速に発展した新興住宅地であり、地域住民や保護者は他県や他地域出身の割合が高く、育成会や地域の伝統的な行事が少ないため、小中学生同士や地域とのつながりが薄い。

### 【部会のねらい】

小中の交流活動を通して、ふるさとの良さを知り、地域や様々な世代とのつながりを感じ、愛着を育てる。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	<B> 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	子ども未来プロジェクト	小中合同クリーン活動	小中あいさつ運動 小中音楽交流	小中学生同士や地域住民とのつながりがもてる企画
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休みに行った小中交流会議で小中学生が積極的に意見を出し合うことができた。</li> <li>下野市いじめ防止強調月間(11月)に向けて、各校で工夫をしながら、感謝の気持ちを伝える活動を行うことができた。</li> <li>「ありがとう」の気持ちを伝える場がつくられたことで、温かい学校の雰囲気を醸成することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当教員同士で直接打ち合わせを実施したことで、当日の流れをスムーズに確認することができ、共通理解が図りやすかった。</li> <li>レクの工夫をしてから活動を行ったことで小学生と中学生の仲が深まり、地域の環境を積極的にきれいにすることに繋がったと感じる。楽しそうに活動している姿がたくさん見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年3回の活動なので、改善点を次回の活動に活かすことができた。</li> <li>小中音楽交流では、小学生と中学生と一緒に歌ったり、中学生が合唱を披露したことで体育館全体に温かい雰囲気が広がった。生徒の自己有用感の高まりや、児童の中学生に対するあこがれの高揚を感じることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>二中の文化祭では、地域・小学生とふれ合う絶好の機会となった。</li> <li>二中の文化祭をパンフレットや動画で小学校にPRしたことが、多くの小学生が中学校に足を運んでくれることにつながった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>感謝の木などの取り組みでは、目的意識をもたせて、社会性や道徳性などを深める活動にしていきたい。</li> <li>取組状況について、学年・学級により温度差が見られた。各学級での取組を共有できる場をつくりたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>レクを充実させるための準備の効率化、清掃用具のバランス、当日参加できない学級・教員などがいた場合の引き継ぎ、活動時間の見直しなど、打ち合わせを細かく行ったからこそ、よりバージョンアップするための課題に気付くことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主性をどのように高めて、継続させていくかが課題。あいさつ運動はしっかりやるが、それが日頃の学校生活に生きていないような印象を受ける。事前指導や事後指導にも工夫が必要になると感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画のPRは、担当者同士の連絡、作成にかかる時間などの点において手間のかかるものなので、多忙感を感じるという意見があった。</li> </ul>



子ども未来プロジェクト(小中交流会)



子ども未来プロジェクト(感謝の木)



小中合同クリーン活動



小中あいさつ運動



小中音楽交流



小中・地域とのつながりがもてる企画(文化祭)